

# 令和2年度 入退院調整ルールづくり支援事業 入退院調整状況調査結果報告(病院調査)

## 目的

南和地域では、病院から在宅へのシームレスな移行にむけて、介護の必要な方が安心して入退院と在宅療養ができる環境づくりの一環として、平成31年2月に「入退院連携マニュアル」を作成し、運用が開始され、1年が経過した。

本調査は病院での入退院調整ルールの活用状況を把握し、前年度調査と比較することで、病院における入退院時のケアマネジャー等との連携による効果と課題を把握することを目的に実施する。

## 概要

### 方法

南和地域の4病院に対し、12月1日～31日の1か月の入院患者に対し、入退院調整ルール対象患者数を把握し、ルールに基づき、入院の連絡、入院時の情報提供、退院連絡等の実施状況を1月10日時点で調査。各病棟で実数把握し、地域医療連携室等で集計。

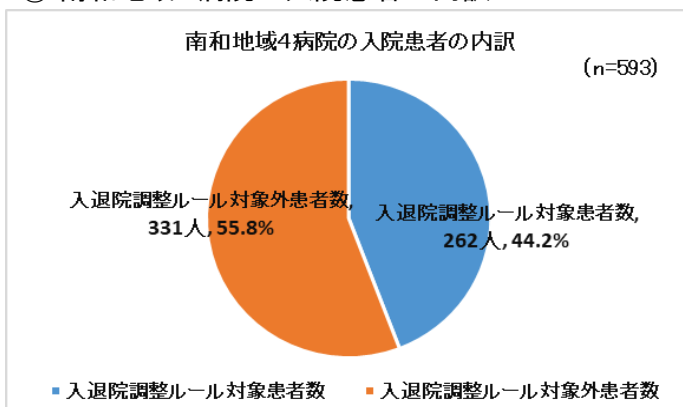
項目	内容
調査期間	令和2年12月1日～12月31日の1か月間
調査票回収期間	令和3年1月20日～2月10日
対象医療機関	南和地域4病院 南和広域医療企業団 南奈良総合医療センター 南和広域医療企業団 五條病院 南和広域医療企業団 吉野病院 医療法人 弘仁会 南和病院 計 4病院
調査票回答者	病棟看護師、地域医療連携室看護師等
回答病院数 (回収率)	南和地域4病院(100%)

## 結果

【令和2年12月1日～12月31日の間に入院した患者について令和3年1月10日時点の状況】

### 1. 入院患者の状況(12月の1か月間)

#### ① 南和地域4病院の入院患者の内訳

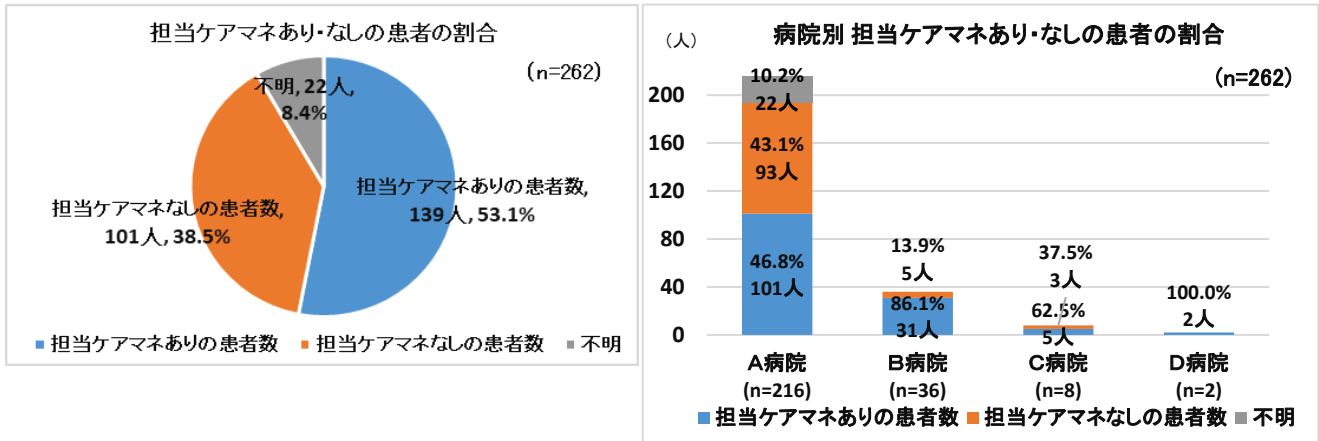


病院名	入院患者数 (12月) (人)	入退院調整 ルール対象 患者数 (人)	入退院調整 ルール対象 患者割合
A病院	491	216	44.0%
B病院	48	36	75.0%
C病院	44	8	18.2%
D病院	10	2	20.0%
計	593	262	44.2%

1ヶ月間の入院患者 593人のうち、入退院調整ルールの対象患者は 262人(44.2%)であった。

※7月調査:入退院調整ルールの対象患者 246人(42.2%) / 583人

② 担当ケアマネあり・なしの患者の割合について

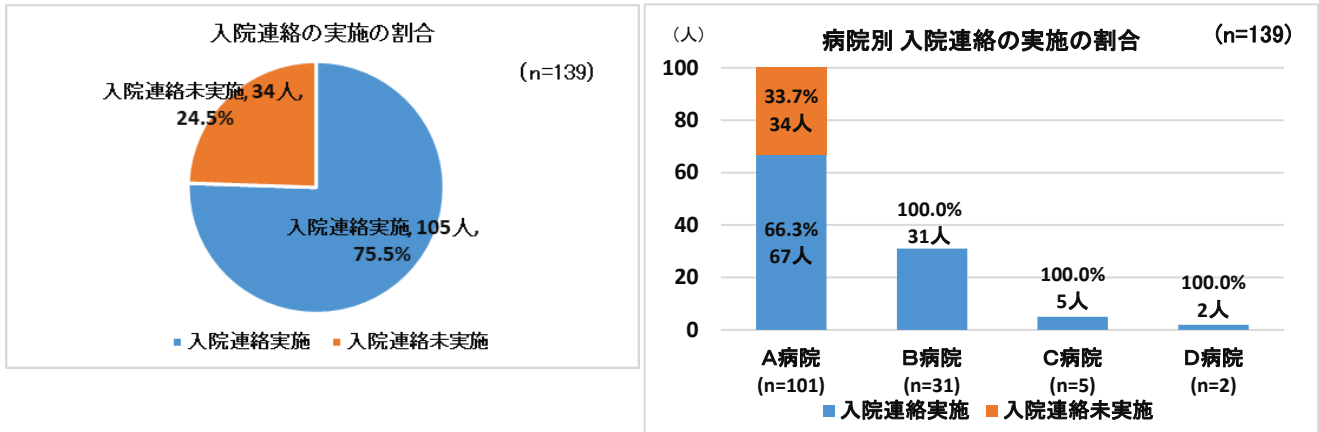


入退院調整ルールの対象患者 262人中、担当ケアマネありの患者が139人(53.1%)、担当ケアマネなしの患者が101人(38.5%)、担当ケアマネの有無不明が22人(8.4%)であった。

※7月調査: 入退院調整ルールの対象患者246人中、担当ケアマネありの患者が125人(50.8%)、担当ケアマネなしの患者が121人(49.2%)

2. 担当ケアマネありの状況

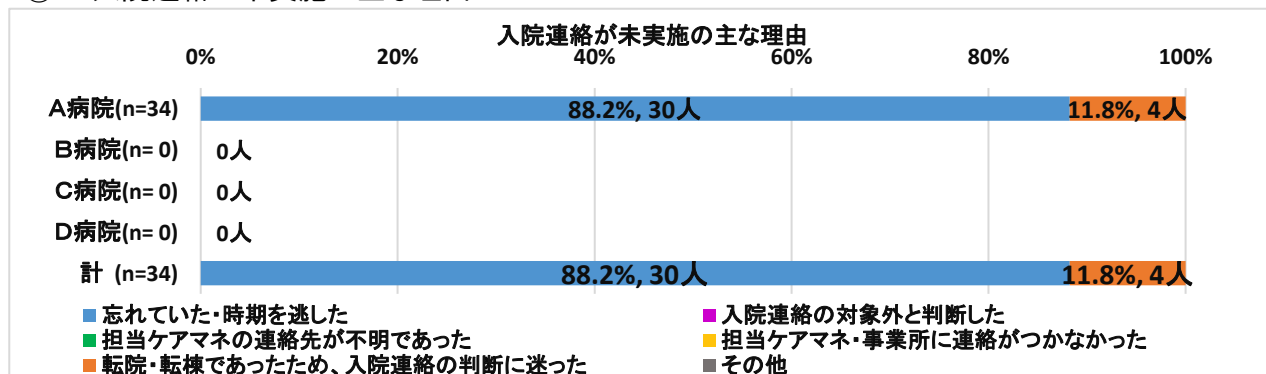
①-1 入院連絡の実施について (病院→ケアマネ)



病院から担当ケアマネへの入院連絡は 139人中 105人(75.5%)が実施できた。

※7月調査: 125人中 101人(80.8%)が実施できた。

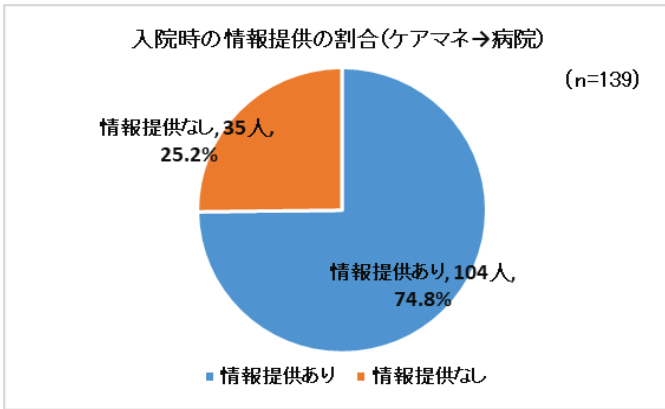
①-2 入院連絡が未実施の主な理由



入院連絡が未実施の主な理由は、「忘れていた・時期を逃した」が34人中30人(88.2%)と最も多く、次いで「転院・転棟であったため、入院連絡の判断に迷った」が4人(11.8%)であった。

※7月調査: 「忘れていた・時期を逃した」が24人中20人(83.3%)と最も多く、次いで「転院・転棟であったため、入院連絡の判断に迷った」が4人(16.7%)であった。

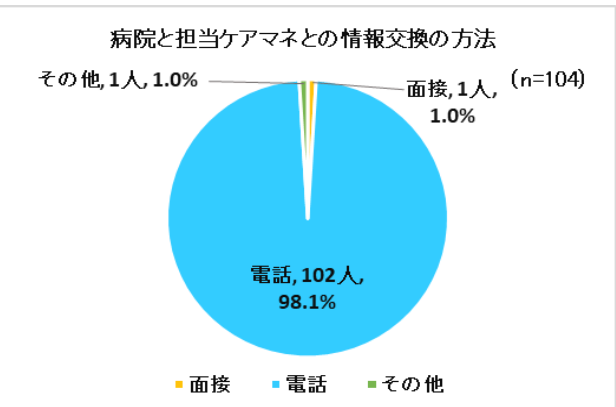
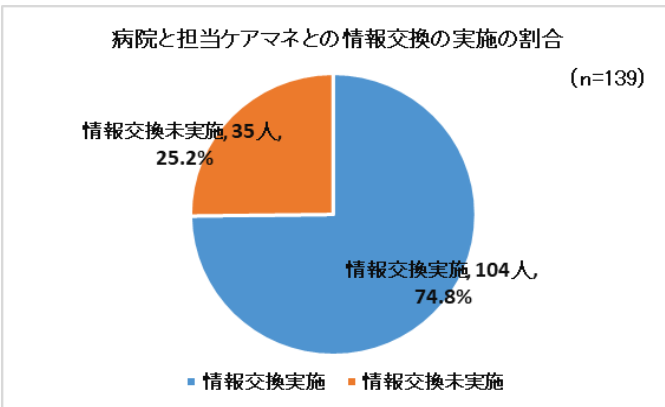
② 入院時の情報提供について（ケアマネ→病院）



入院時のケアマネから病院への情報提供書の提供は139人中104人(74.8%)であった。

※7月調査：情報提供書の提供は125人中87人(69.6%)であった。

③ 病院と担当ケアマネとの情報交換の実施割合と、情報交換の方法について



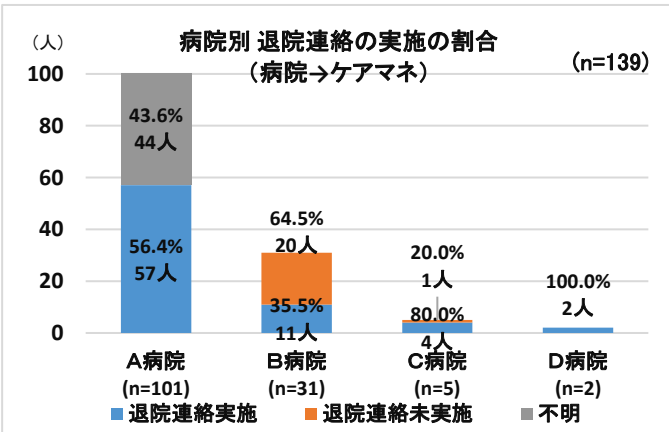
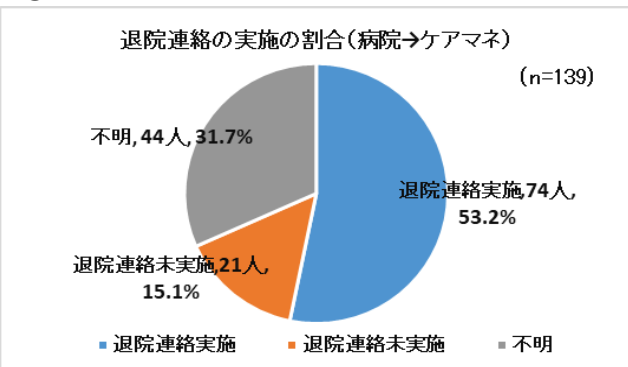
病院と担当ケアマネとの情報交換は139人中104人(74.8%)が実施できた。

また、病院と担当ケアマネとの情報交換の方法については、「電話」が102人(98.1%)で最も多く、「面接」と「その他」はそれぞれ1人(1.0%)であった。

※7月調査：125人中88人(70.4%)が実施できた。

また、情報交換の方法については「電話」が81人(92.0%)で最も多く、次いで「面接」6人(6.8%)、「その他」1人(1.1%)であった。

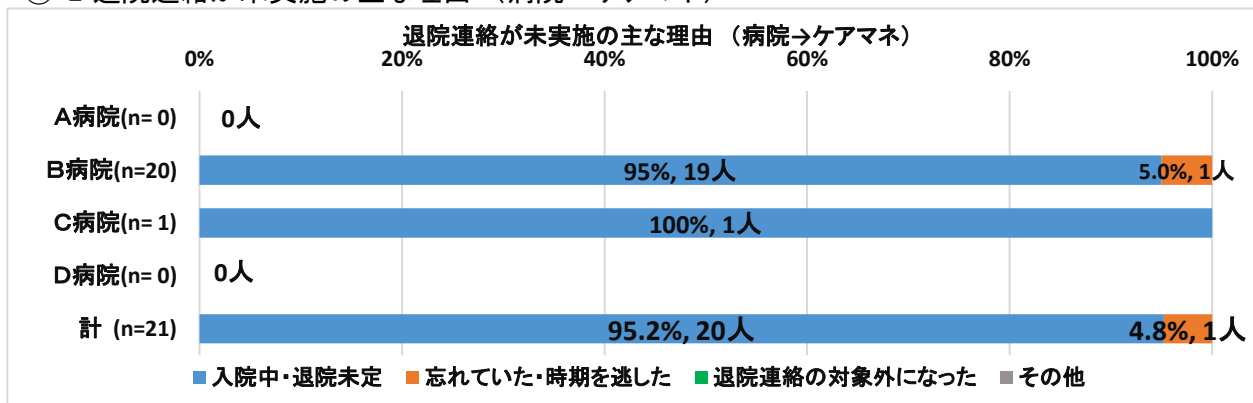
④-1 退院連絡の実施について（病院→ケアマネ）



病院から担当ケアマネへの退院連絡は139人中74人(53.2%)が実施できた。

※7月調査：125人中94人(75.2%)が実施できた。

④-2 退院連絡が未実施の主な理由（病院→ケアマネ）

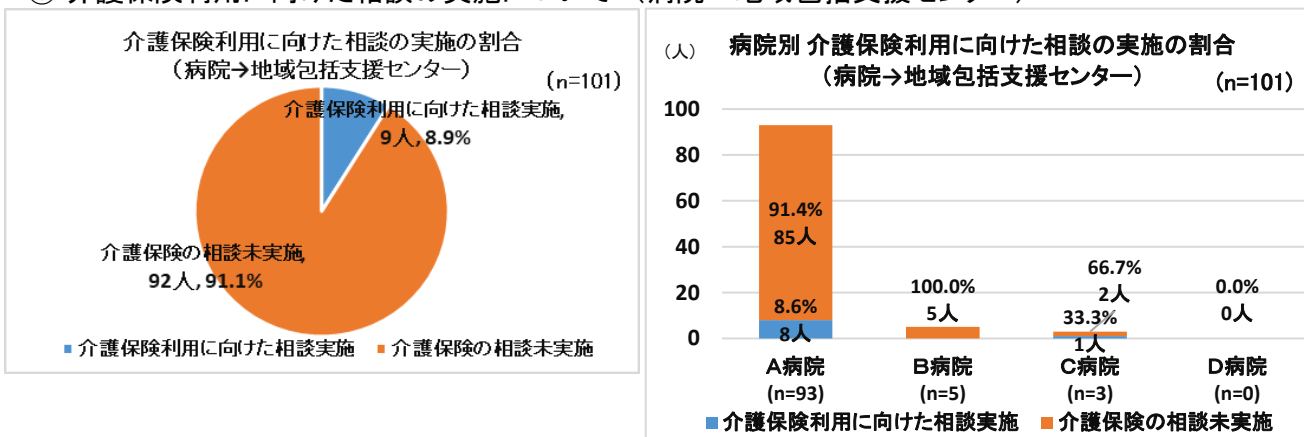


退院連絡が未実施な主な理由には、「入院中・退院未定」が21人中20人(95.2%)と最も多く、次いで「忘れていた・時期を逃した」が1人(4.8%)であった。

※7月調査:「入院中・退院未定」が31人中21人(67.7%)と全体の割合の半数以上で最も多く、次いで「忘れていた・時期を逃した」が7人(22.6%)、「退院連絡の対象外になった」3人(9.7%)であった。

3. 担当ケアマネなしの状況

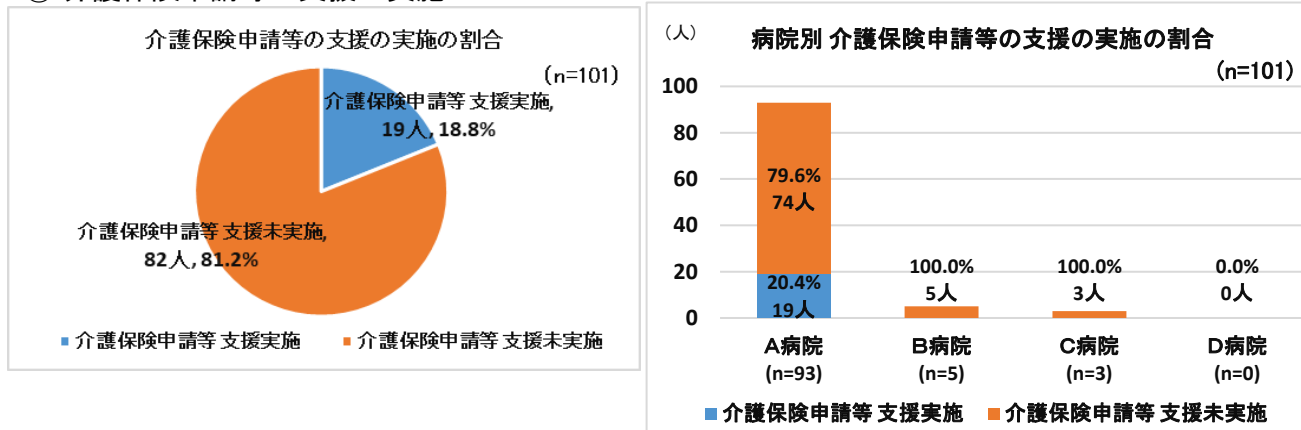
① 介護保険利用に向けた相談の実施について（病院→地域包括支援センター）



病院から地域包括支援センターへの介護保険利用に向けた相談は101人中9人(8.9%)が実施できた。

※7月調査:121人中18人(14.9%)が実施できた。

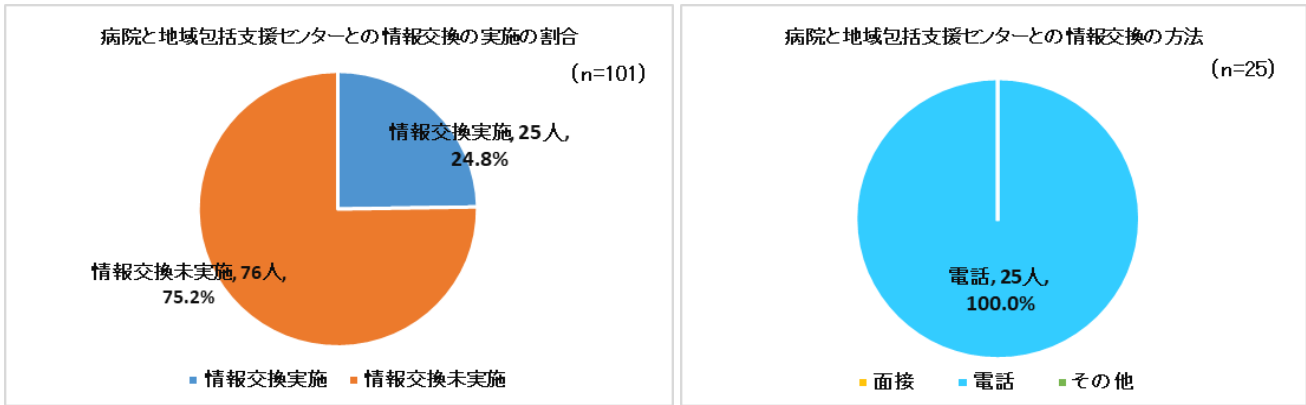
② 介護保険申請等の支援の実施について



介護保険申請等の支援は101人中19人(18.8%)が実施できた。

※7月調査:121人中21人(17.4%)が実施できた。

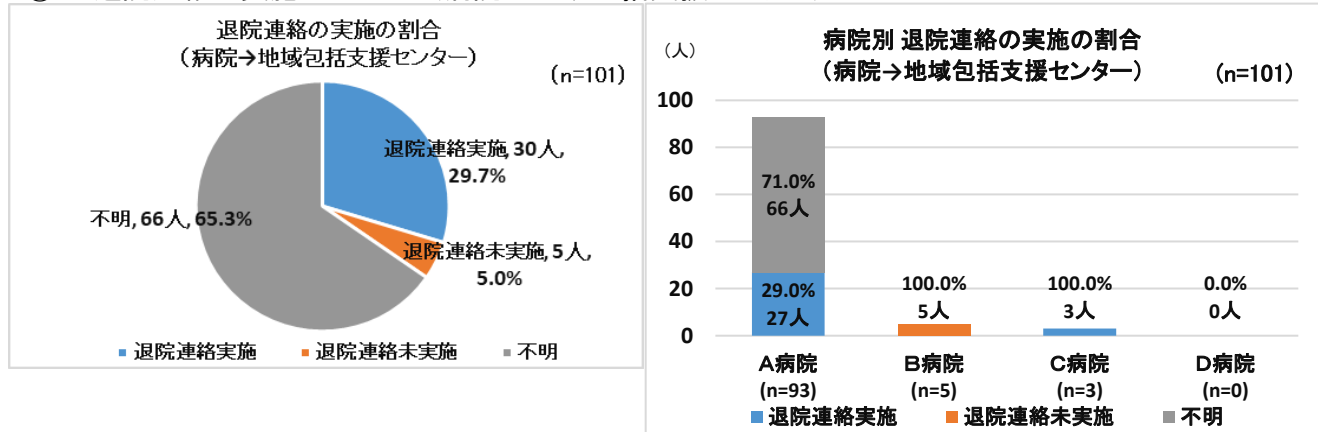
③ 病院と地域包括支援センターとの情報交換の実施割合と、情報交換の方法について



病院と地域包括支援センターとの情報交換は101人中25人(24.8%)が実施できた。  
また、病院と地域包括支援センターとの情報交換の方法については、25人全て(100%)が「電話」であった。

※7月調査:121人中34人(28.1%)が実施できた。  
また、情報交換の方法については34人全て(100%)が「電話」であった。

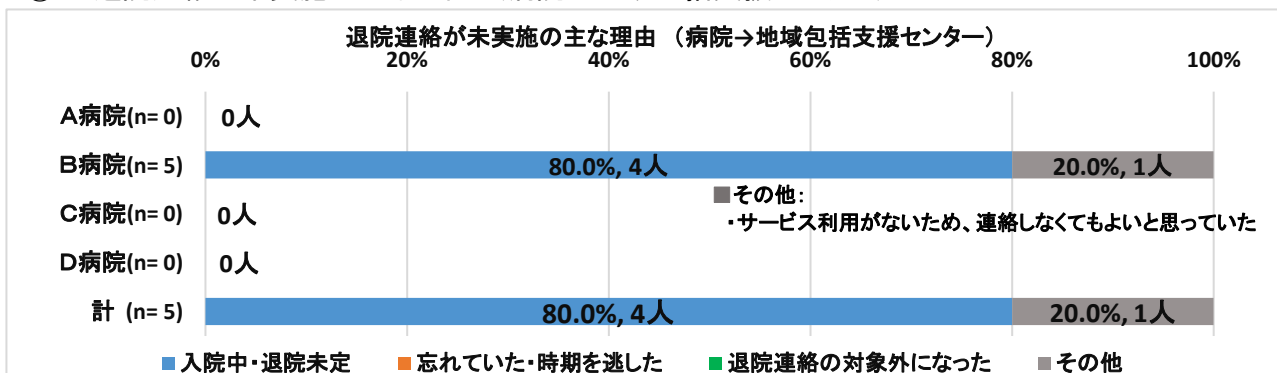
④-1 退院連絡の実施について (病院→地域包括支援センター)



病院から地域包括支援センターへの退院連絡は101人中30人(29.7%)が実施できた。

※7月調査:121人中34人(28.1%)が実施できた。

④-2 退院連絡が未実施の主な理由 (病院→地域包括支援センター)



退院連絡が未実施な主な理由には、「忘れていた・時期を逃した」が5人中4人(80.0%)で、次いで「その他」が1人(20.0%)であった。

※7月調査「忘れていた・時期を逃した」が87人中37人(42.5%)と最も多く、次いで「入院中・退院未定」が36人(41.4%)、「退院連絡の対象外になった」14人(16.1%)であった。

## 4. 自由記述

### ① 病院連絡会で参考になったことや、今後の入退院調整に活かそうなことをご記入下さい。

- ・ケアマネジャーに退院の相談をもっとしても良い、ということが解かった。(在宅サービスや福祉の事等)
- ・在宅事業者さんに情報提供する時には退院後の生活面(自立度)を詳細に伝えなくてはならない。

### ② 病院連絡会で検討した内容について、どのように病院内で共有されましたか？

- ・カンファレンス時に情報提供する。

### ③ 地域包括支援センターと連携する際に、地域包括支援センターに配慮して欲しいことなどをご記入下さい。

- ・先日、高齢・独居、軽度認知症の患者さんがいらっしゃり、居宅に戻るためには入院中からサービスの調整を始める必要があるとの判断で、ある介護福祉課に相談させて頂いたところ、早々に病院までお越し頂けることになったという事例がありました。  
市町村によっては、退院してからでないと認定調査を行わないと言われることもあります。  
反対に、事情を加味して、早期に対応して下さる市町村もあり、居住地でサービスのタイミングに差がつくのは、患者さんにとって不利益に思う、という声を時々聞きます。  
ご高齢の方が増える一方の現状では、財政や人的資源などの制約で、審査が滞ることもあると思いますが、どのようにすれば、ご高齢の方の生活を中心に据えてよりよく連携して行けるのかと、悩ましい思いでいます。  
新型コロナ感染も終息には時間がかかりそうですし、私どもにできることがあれば、遠慮なくお声掛け頂ければと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- ・面談に看護師の対応が必要な時は午後からでお願いしたい。
- ・連絡する人によって、病院連絡を理解されていない人がいるので地域包括支援センターの方でも統一してほしい。
- ・連絡の電話は、なるべく早く担当につないでほしい。

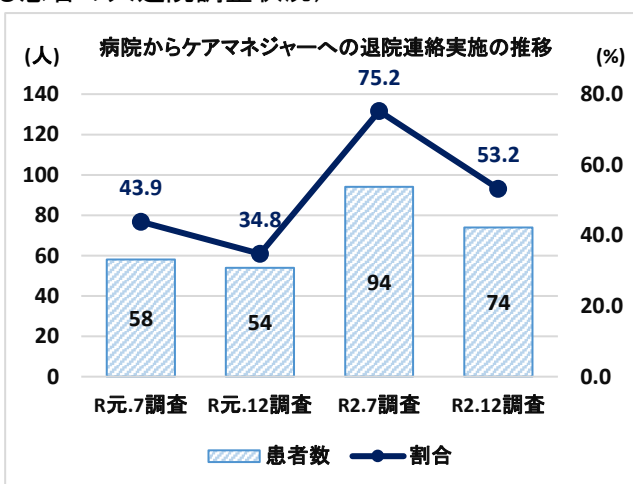
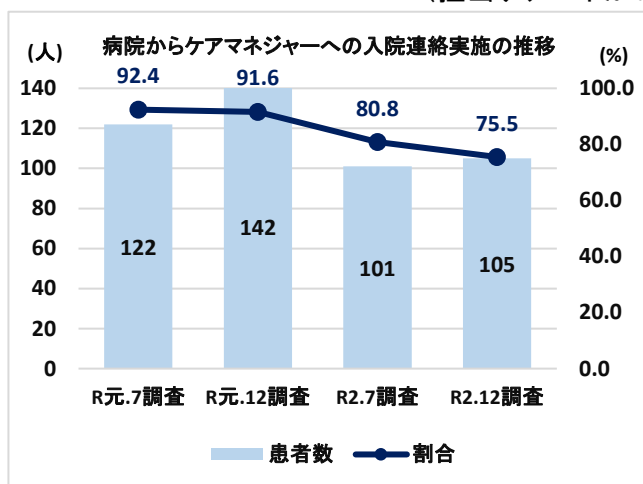
## 5. まとめ

- ・1ヶ月の入院患者のうち入退院調整ルールの対象患者は44.2%であった。
- ・担当ケアマネありにおいては、入院連絡の実施が75.5%、病院と担当ケアマネの情報交換の実施は74.8%に対し、病院から地域包括支援センターへの介護保険利用に向けた相談は8.9%、情報交換の実施は24.8%であった。
- ・担当ケアマネありのケアマネから病院への入院時の情報提供の割合は74.8%と7月調査に比べて増加した。
- ・担当ケアマネありにおいては、退院連絡の実施は53.2%であり、退院連絡未実施の主な理由は、「入院中・退院未定」が95.2%であった。  
担当ケアマネなしにおいては、退院連絡の実施は29.7%であり、退院連絡未実施の主な理由は、「入院中・退院未定」が80.0%であった。
- ・前回調査と同様に、病院からケアマネジャーへの入院連絡・退院連絡の実施率に比べ、病院から地域包括支援センターへの介護保険利用に向けた相談や退院連絡の実施率は低い。
- ・今年度、病院連絡会を実施できなかった病院とも病院連絡会を実施し、連携を深める必要がある。
- ・昨年度と同様に、7月調査に比べ12月調査では入院連絡の実施、退院連絡の実施状況が悪化している状況であるが、コロナ禍でも電話連絡による情報交換が来ている。感染症対策を講じながら入退院調整がスムーズに出来るよう、今後も対策が必要。

担当ケアマネがいる患者の入退院調整状況	令和元年 7月調査	令和元年 12月調査	令和2年 7月調査	令和2年 12月調査
病院からケアマネジャーへの入院連絡実施	122人 92.4%	142人 91.6%	101人 80.8%	105人 75.5%
病院からケアマネジャーへの退院連絡実施	58人 43.9%	54人 34.8%	94人 75.2%	74人 53.2%

担当ケアマネがいない患者の入退院調整状況	令和元年 7月調査	令和元年 12月調査	令和2年 7月調査	令和2年 12月調査
病院から地域包括支援センターへの介護保険利用に向けた相談の実施	48人 52.7%	29人 41.4%	18人 14.9%	9人 8.9%
病院から地域包括支援センターへの退院連絡実施	19人 20.9%	18人 25.7%	34人 28.1%	30人 29.7%

(担当ケアマネがいる患者の入退院調整状況)



(担当ケアマネがいない患者の入退院調整状況)

